

【金澤委員からの意見等要旨】

○県内の産科医療について

市民病院及び福田病院が主に担っている出産環境について、本日の発表では集約化否めないとのことでしたが、可能な限り県内各地域で分娩、特に正常分娩については安心してもらえるよう様々な政策をぜひ議論していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

地域医療構想として重要なことだと思います。

また、各基幹病院が課題とされていた医療機関間の患者紹介、転院など、病床コントロールの為のDXが重要と思われれます。KMN他ITの活用を検討して実現に向けたいと思いますが、いかがでしょうか。

【県からの回答】

○ 限られた医療資源の中で安全・安心な分娩環境を維持していけるよう、周産期医療体制については、周産期医療協議会を通して、必要な支援について議論していきたいと思います。

また、現在、分娩取扱医療機関には勤務環境の改善を図るため、分娩手当を支給する医療機関に対する助成を行っています。

○ 現在、くまもとメディカルネットワークを利用した医療機関間の患者照会等を推進しておりますが、くまもとメディカルネットワークの利活用の更なる推進を図るため、県医師会、熊本大学病院、県の三者が連携して、引き続き利用者や参加施設を増やす取組みを進めて参ります。